

インマヌエル中目黒キリスト教会 聖日礼拝・2007. 10. 21.

メッセージ
教団創立記念日にちなみ
「臨在の信仰に
生きる」

創世記39章1-5, 20-23節
竿代照夫牧師



聖書朗読

旧約聖書

創世記39章1節-5節
及 20-23節

1 ヨセフがエジプトへ連れて行かれたとき、パロの廷臣で侍従長のポティファルというひとりのエジプト人が、ヨセフをそこに連れて下って来たイシュマエル人の手からヨセフを買い取った。

2 主がヨセフとともにおられたので、彼は幸運な人となり、そのエジプト人の主人の家にいた。

3 彼の主人は、主が彼とともに
おられ、主が彼のすること
すべてを成功させてくださるの
を見た。

4 それでヨセフは主人にことのほか
愛され、主人は彼を側近の者
とし、その家を管理させ、彼の
全財産をヨセフの手にゆだねた。

5 主人が彼に、その家と全財産とを
管理させた時から、主はヨセフ
のゆえに、このエジプト人の家
を、祝福された。
それで主の祝福が、家や野に
ある、全財産の上にあった。

20 ヨセフの主人は彼を捕え、王の囚人が監禁されている監獄に彼を入れた。こうして彼は監獄にいた。

21 しかし、主はヨセフとともにおられ、彼に恵みを施し、監獄の長の心にかなうようにされた。

22 それで監獄の長は、その監獄に
いるすべての囚人をヨセフの手
にゆだねた。ヨセフはそこでな
されるすべてのことを管理する
ようになった。

23 監獄の長は、ヨセフの手に
任せたことについては何も干渉
しなかった。それは主が彼とと
もにおられ、彼が何をして、
主がそれを成功させてくださっ
たからである。

説教

メッセージ

教団創立記念日に因んで

「臨在の信仰に生きる」

創世記39章1-5, 20-23節

竿代照夫牧師

主テキスト：

「主はヨセフとともにおられ、彼に恵みを施し、監獄の長の心になうようにされた。」

(創世記39:21)

はじめに：

教団創立62周年記念日

（「インマヌエルの60年」参照）

A. インマヌエルの歴史

1. 誕生に至るまで

- 1) 18世紀ウェスレーの
メソジスト運動
- 2) 「ホーリネス派」の活躍
- 3) 蔦田二雄師の生涯と
リバイバル・リーグ
- 4) 東条内閣の弾圧と幽囚

5) 「インマヌエル」 (神共に在す) の信仰とビジョン

- ① 聖書主義
- ② 聖化の教理と実践
- ③ 世界宣教
- ④ 自給原則

インマヌエルの歴史1 ~1942年

18世紀

ウェスレーのメソジスト運動



19世紀

アメリカのホーリネス運動

1901

日本ホーリネス教会

1938

リバイバル・リーグ

1942

教会弾圧



インマヌエルの歴史2 1945~1960年

1945	10月21日の祈り会→インマヌエル創立
1946	3月に伝道部誕生 船橋開拓
1948	丸の内教会創立 果敢な伝道と教会開拓で後に全国121教会に
1949	丸の内ではBTC開校
1950	BTC、北浦和へ
1958	福音文書刊行会（EPA）に協力
1960	総理、インド視察

インマヌエルの歴史3 1961~1990年

1961 インドへ「宣教留学生」派遣

1967 BTC、横浜・藤が丘へ

1968 日本福音同盟（JEA）に協力

1969 ジャマイカへ

1970 ケニアへ

1973 パプアニューギニアへ（三期で終了）

1979 フィリピンへ

1984 ボリビアへ

1985 本部がOCCへ移転

日本聖化交友会（JHA）に協力

1988 台湾へ

インマヌエルの歴史4 1991年~2007年

1992 香港へ（二期で終了）

1997 組織改革への動き

2003 ハイチへ（短期で終了）

2006 組織改革開始

2007 カンボジアへ（短期）

2. 現在の課題と展望

- 1) 停滞状況
- 2) 合議的な監督制への移行
- 3) 青年の活性化に向けて
- 4) 教職・信徒の協力体制の強化

B. 臨在の信仰に歩んだヨセフ

1. 臨在は（格別）危機において表わされた

- ・ 奴隷として売られたとき
- ・ 冤罪で牢獄に入れられたとき

2. 臨在の事実は、他の人も認めた

- ・ ポテパルも
- ・ 牢屋の番人も

3.臨在は、仕事の祝福となって 現れた

- 人々の信用を得た
- することなすことが成功に
導かれた

4. 臨在の信仰は、危機において確かなものと捉えられた

- 神は（遍在のお方であり）どこにでもおられる
（詩篇139:7-12）が、
- （特別に）謙り、神により頼む者と共におられる
（創世記 42:21、イザヤ57:15）

終わりに：

私達が「インマヌエル」
であると言う意味

- ・（インマヌエルという）名前が、
神の臨在を自動的に齎す
わけではない
- ・ 神のご臨在を切に求めよう